

受験申し込みから技術士資格取得までの流れ（平成25年度の場合）

1次試験（技術士補試験）と2次試験（技術士試験）は、その内容・方法の精選・簡略化等が進められており、合格率がアップしつつあります。

各試験の内容、スケジュールは概略以下の通りです。

1次試験

- ・ 6月10日～7月1日 技術士第一次試験 受験申込受付
- ・ 試験内容 基礎科目、適性科目、専門科目の3科目の筆記試験（すべて択一式）
- ・ 試験期日 平成25年10月14日（月）
- ・ 試験地 北海道、宮城県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県及び沖縄県。
- ・ 合格発表 平成25年12月 ・ 受験手数料 11,000円

2次試験（平成26年度も25年度に準拠する見込みです。）

- ・ 4月10日～5月8日 技術士第二次試験 受験申込受付
- ・ 試験内容 筆記試験（択一式及び記述式）及び口頭試験。口頭試験は、筆記試験に合格した者について行う。
- ・ 筆記試験期日 平成25年8月4日（日）
- ・ 試験地 北海道、宮城県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県及び沖縄県。
- ・ 口頭試験期日 平成25年11月から平成26年1月までの1日。約20分。
- ・ 試験地 東京都 ・ 受験手数料 14,000円
- ・ 合格発表 筆記試験については、平成25年10月に可否を通知。口頭試験については、平成26年3月に筆記試験及び口頭試験の合格発表。

詳しくは、下記でご確認ください。

日本技術士会のホームページ <http://www.engineer.or.jp/>

平成25年度技術士試験の概要について

http://www.engineer.or.jp/c_topics/002/attached/attach_2183_2.pdf

平成24年度技術士試験合否決定基準（25年度もほぼ同程度になると思われます）

http://www.engineer.or.jp/c_topics/001/attached/attach_1648_1.pdf

平成24年度技術士第一次試験統計（合格率）

http://www.engineer.or.jp/c_topics/001/attached/attach_1012_2.pdf

森林部門技術士会のホームページ <http://www.forest-pro.jp/>

また下記の林産専門の技術士にメールで問い合わせただければ、わかる範囲でお答えいたします。

綾木 光弘（元王子製紙） takeiteasy1952@yahoo.co.jp

石谷 榮次（元千葉県庁） leiai@muh.biglobe.ne.jp

喜多山 繁（元東京農工大学） kitayama331@nifty.com

柴田 直明（長野県庁） shibata-naoaki@pref.nagano.lg.jp

技術士（森林部門・林産）受験のご案内 －最近受験した者の体験的報告－

平成 21 年度に第一次試験，22 年度に第二次試験を受験した者です。

日常の業務に追われる中での受験でしたので，受験勉強に当てられた時間は第一次試験，第二次試験とも，実質的には3日前後でした。

従って，あまり参考にはならないかも知れませんが，試験の概要と私の受験体験を簡単に記してみます。お忙しい方々の受験対策として，多少なりとも参考にしていただければ幸いです。

平成 25 年度からは，試験内容の一部がさらに易しくなります。

この文書をお読みの方々は，受験しさえすれば，全員合格すると思われます。

ぜひ，積極的に受験してみてください。

第一次試験

(1) 第一次試験の概要

平成 25 年度からは，下記により実施されます（合否決定基準は，平成 24 年度のもの転載）。

試験科目	試験方法 (すべて択一式)	試験時間	配点	合否決定基準
適性科目	15 問出題 全問解答	1 時間	15 点	適性科目の得点が 50%以上
基礎科目	5 分野から各 6 問 計 30 問出題 5 分野から各 3 問 計 15 問解答	1 時間	15 点	基礎科目及び専門科目の 各々の得点が 40%以上， かつ両科目の合計得点が 50%以上
専門科目	35 問出題 25 問解答	2 時間	50 点	

すべて択一式（選択問題）です。

基礎科目は，30 問から 15 問を選択できるようになりました（以前は 25 問から 15 問選択）。

平成 24 年度の第 1 次試験における対受験者合格率は，大学・公務員関係者が 80%前後，一般企業関係者が 70%近くでした。

ぜひ，自信を持って受験してください。

(2) 第一次試験の受験対策

これまでの出題傾向をみると，設問の半数前後は過去に出題された問題の応用型のようなのです。

そこで，私の場合は，過去問題を見ながら勉強しました。

この方法が最も効率的だと思いますが，いかがでしょうか。

以下は，私の受験体験です。

過去問題は，例えば下記から閲覧可能です（択一問題の正答も見られます）。

http://www.engineer.or.jp/c_categories/index02021.html

a) 適性科目

まずは、「技術士法 第四章 技術士等の義務」を見ておく必要があります。

これは、例えば右記から閲覧可能です。 <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S58/S58H0025.html>

そこで、これを頭に入れた上で、最近の過去問題を1つ（1年度分）選んで解いてみました。

すると、50%以上の得点は困難でした。

いくつかの有名な具体的事例や、内部告発の認められる条件等々、多少は勉強する必要がありました。

私の場合は教科書的な本を購入するための時間的な余裕がなかったので、インターネットで一夜漬けた勉強をしました。

最近では、いろいろなサイトで技術士受験に向けた支援をしてくれています。自分に合ったサイトを探してみてください。

参考までに、私が利用したサイトは下記でした（前年に技術士森林部門を受験した方からの紹介で）。

<http://www.pejp.net/pe/>

上記において、過去問題の解説や適性科目対策等を見て勉強しましたが、そこに書いてある程度で受験対策としては十分な内容でした。

「過去問題1年度分を解いては、上記サイトで補足勉強をする」という作業を繰り返し、3（～5）年度分の過去問題に当たれば、ほぼ確実に合格できると思われれます。

b) 基礎科目

基礎科目は範囲が広く、一見すると大変そうです。

しかし、15問を選び、40%以上の得点が得られればよいのです。つまり、鉛筆を転がす等の方法で偶然に正解になったものも含め、全体の中から6問に正解できればよいのです。

そう考えれば、何とかあります。

私の場合は、まず1年度分の問題全部にざっと目を通し、各問題に ○：解けそう、△：解けるかも、×：無理 のマークを付けました。

そして、「○、△、×の中でもやや△に近い」の順に 5分野×3問＝15問 を選んで解答しました。

受験勉強としては、上記の適性科目と同様、過去問題を解いては上記サイト (<http://www.pejp.net/pe/>) で補足する、という作業を繰り返しました。補足勉強は時間の制約もあったので、○・△印の中から直ぐに思い出せそう、あるいは直ぐに覚えられそうなものに限定しましたが、それで十分でした。

平成25年度からは30問の中から15問を選べるので、さらに合格しやすくなると思われれます。

c) 専門科目

基礎科目で6点を取るとすると、専門科目では28点（14問の正解）が必要になります。

私の場合は、まず問題全部にざっと目を通し、各問題に期待できる正答率で ◎：80%以上、○：60～70%、△：40～50%、×：確率1/5の20% という4種類のマークを付けました。

そして、◎のものから25問に解答する、という方法を取りました。

専門科目の場合は、適当なインターネットのサイトが見つからなかったので、手元にあるJAS、JISをはじめ、教科書やハンドブック類を参考にしました。

勉強対象は主として○印を付けた項目に限定し、受験に必要なごく概略的な内容のみを確認しました。

専門科目も、3（～5）年度分の過去問題に目を通せば十分だと思います。

(補足)

選択問題の場合、解答欄にもヒントが潜んでいます。多少なりとも知っている項目があれば、出題者の立場になって考えることにより、正解に辿りつける場合があります。

また、×印の問題に解答する場合、私は「すべて3にする」とか「すべて4にする」等と決めて解答しました。鉛筆を転がす方法だとすべて誤答となる危険性もあると思うのですが、いかがでしょう。

第二次試験

第二次試験も、平成 25 年度から変わります。

「技術的体験論文の提出」が廃止になり、択一式の問題が復活します。

私の場合、第二次試験については下記の講習会（当時）に参加しました。

技術士(森林部門)第二次試験受験講習会 <http://www.shin-con.jp/>

最終的な口頭試験も、最初に提出する業務経歴票等に基づいて行われます。

従って、受験申込書を記入する時まで、受験者各自の頭の中で、口頭試験までを見据えた全体構想を構築しておく必要があります。

私の場合、上記の講習会に出て、初めて第二次試験の全体像を理解することができました。

身近に最近の技術士試験を受けた方がおられない場合（具体的なことを教えてくれる方がおられない場合）は、こういう講習会へ参加することも一つの方法だと思います。

具体的な勉強方法としては、森林・林業白書（最新の2年度分程度）にも目を通しておく必要があります。森林・林業白書は、例えば下記から閲覧できます。

http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/23hakusyo_h/all/index.html

ただし、記述式試験で書ける量は限られていますので、「トピックス」や「概説」程度に目を通しておけば十分だと思います。

記述試験では、「あなたの考えを述べよ」という問題もあります。森林・林業白書等の内容を踏まえつつも、自分の体験を基に「+α」を書けるようにしておいた方がよいのでは？、とも思います。

第二次試験の準備としては、一番長い文書を書く必要がある設問を選び、実際に自分の手で解答を書いてみてください。私はこれを省略してしまったため、試験当日に時間配分を誤り、最後の方で時間が足りなくなって慌てました。

また、最近はパソコンを使って文書を作ることが多いので、自分の手で書こうとすると、漢字が書けなかったりします。キーワード的なものは、手書きしながら勉強した方がよいと思います。

平成 25 年度技術士試験の概要等については、下記でご確認ください。

平成 25 年度技術士試験の概要について

http://www.engineer.or.jp/c_topics/002/attached/attach_2183_2.pdf

平成 24 年度技術士試験合否決定基準（25 年度も同様になると思われます）

http://www.engineer.or.jp/c_topics/001/attached/attach_1648_1.pdf

以上、簡単ではありますが、恥を忍んで、私の受験体験を記してみました。
多少なりとも参考にしていただける部分があれば幸いです。
皆様の積極的な受験と合格を祈念しております。

(長野林総セ 柴田)